

【子どもサミットの活動からピックアップ】



高校生まちづくり会議との夢の「コラボ」が実現



絆が一層深まった3年目の釜石市との交流

2月10・11日、サミット委員14人が釜石市立大平^{おおいら}中学校を訪問し、釜石市の全5中学校の生徒会役員と交流しました。3年目となった今回は、ペットボトルキャップ回収活動で得たプラントナー30個のうち、20個を釜石市生徒会に寄贈しました。また、これまでの交流の中で、釜石市の全中学校でもペットボトルキャップを集めるという話も進んでいて、釜石市生徒会から子どもサミットに贈呈されました。残り10個のプラントナーは大館の各中学校で活用することとしています。今年の春からは、互いの思いが詰まったプラントナーに咲く花が、釜石・大館両市の生活に彩りを添えることとなります。

今年度の冬休みに開催した子どもサミット代表会議には、高校生まちづくり会議「HACCHI」の皆さんが招かれ、活動の様子を紹介しました。サミット委員たちは、高校生もふるさとのために取り組んでいることを知り、その活動の広さと深さに驚いていました。中学生からは「子どもサミットでの経験を生かし、私も高校生になったらHACCHIに入って頑張りたい」という感想も出て、子どもサミットの更なる可能性を見つける素晴らしい機会となりました。「HACCHI」の皆さんは、その後のグループ協議にも加わり、小・中学生との交流を深めていきました。

平成27年度
サミット運営委員が決まりました

運営委員は、サミット委員の中から選ばれた7人で構成されていて、年に5回運営委員会を開き、サミット代表会議をどのように進めるかなどを話し合います。27年度の運営委員長に就任した細谷直斗さんにインタビューしました。



運営委員長
細谷直斗さん
(第二中学校2年)

◆委員長としての抱負は？

大館市がどうすれば良くなるかを考えて子どもサミットの先頭に立ち、副委員長と協力して頑張っていきたいです。一部の人だけでなく、大館市の小・中学生みんなで取り組み、ふるさとの役に立ちたいと思います。

◆小学生の時も運営委員として活躍したそうですね。

小学生の時に運営委員の先輩方を間近に見て、中学生ってすごいなという思いをもちました。自分の中には、その時の先輩方の姿が理想としてはつきりあるので、それを目指して取り組むことができます。

◆委員長の立場で参加した代表会議の感想は？

代表あいさつもあったので、これまでとは違う緊張感がありました。でも、

終わってみれば、話し合いも活発で良かったし、本当に楽しかったです。委員長の立場として考えると、サミット委員のみんなはとても頼もしく感じました。

◆釜石との交流への気持ちは？

被災地の方々の思いは、他地域でも参考になり、大事にしていくべきだと思います。大震災から4年経った被災地の現状をしっかりと見て、釜石の中学生と話をしていきたいです。

◆細谷さんにとって、子どもサミットとはどんなもの？

小・中学生という年齢でまちづくりに関われる機会はなかなかありませんが、子どもサミットでは本当に僕たちが大館市のために意見を出し、行動していきます。子どもサミットは僕にとって、自分が大館市の一員だと実感できる場所です。

子どもサミット
27年度の活動計画

- ☆各小・中学校での取り組み(4～3月)
- 第1回運営委員会(5月)
- 第2回運営委員会(7月)
- ☆第1回子どもサミット代表会議(8月)
- 第3回運営委員会(8月)
- 第4回運営委員会(12月)
- ☆第2回子どもサミット代表会議(12月)
- 第5回運営委員会(1月)
- ☆ペットボトルキャップ回収報償品寄贈(2月)
- ☆釜石市との交流(2月)